

# 令和2年度 ふるさとづくり大賞

## 受賞者の概要

令和3年1月21日



## 最優秀賞

松場 登美【島根県大田市】	1
---------------	---

## 優秀賞

岩手県紫波町	2
特定非営利活動法人智頭の森こそだち舎【鳥取県智頭町】	3

## 団体表彰

特定非営利活動法人奥入瀬自然観光資源研究会【青森県十和田市】	4
シェアビレッジ・プロジェクト【秋田県五城目町】	5
特定非営利活動法人素材広場【福島県会津若松市】	6
陽野ふるさと電力株式会社【埼玉県秩父市】	7
特定非営利活動法人芸術と遊び創造協会【東京都新宿区】	8
株式会社カーブドッチ【新潟県新潟市】	9
特定非営利活動法人ふるさと福井サポートセンター【福井県美浜町】	10
大日向そば活性化組合【長野県上田市】	11
結いの里・椋川【滋賀県高島市】	12
むろと廃校水族館【高知県室戸市】	13
サワディー佐賀【佐賀県佐賀市】	14
三井三池炭鉱万田坑ファン倶楽部【熊本県荒尾市】	15
ながたに振興協議会【大分県豊後大野市】	16

## 地方自治体表彰

北海道北竜町	17
長野県工業技術総合センター	18
三重県いなべ市	19
奈良県生駒市	20
徳島県美波町	21
愛媛県松山市	22

## 個人表彰

島田 憲一【埼玉県秩父市】	2 3
山本 進【石川県七尾市】	2 4
周藤 實【島根県松江市】	2 5
三原 大知【高知県津野町】	2 6
山岸 義浩【高知県須崎市】	2 7
飯干 淳志【宮崎県高千穂町】	2 8

## 奨励賞

金子 拓雄【秋田県由利本荘市】	2 9
-----------------	-----

※【 】内は、受賞者の所在地（住所地）又は表彰の対象となった活動の主な実施地域

※ 受賞者の活動内容について、紹介ページにおいて、以下の活動分野に分類した。

### 活動分野一覧

地域経営改革

地場産品発掘・ブランド化

定住促進

安心・安全なまちづくり

観光振興・交流

まちなか再生

若者自立支援

環境保全

産業振興

コミュニティ

産学官連携

その他（ ）

※ その他については、（ ）内に該当する活動分野を記載

## 松場 登美

島根県大田市

地場産品発掘・ブランド化

定住促進

観光振興・交流

まちなか再生

コミュニティ

## 概要

夫の故郷である大田市大森町に1ターンした昭和56年から石見銀山の歴史や豊かな自然、そこに共生する人々の暮らしに魅了され、布小物の製造販売の傍ら古民家の修復を手掛け、平成6年に服飾ブランド「群言堂」を設立。日本の技や産地を守る為に、国内の素材や国内生産にこだわり、暮らしに根ざしたものづくりの良さを全国に発信。その4年後には株式会社石見銀山生活文化研究所を設立。過去から本質を理解し、未来からの視点で創造する考え方を松場夫妻は「復古創新」と表現し、他と一線を画すその衣食住のスタイルに共感した若者が全国から移住したことから、大森町の人口は社会増加し、地域に根付くことで自然増加につながっている。

## 評価された点

- ・ライフスタイルブランド「群言堂」から古民家を再生した宿「他郷阿部家」へとつながる石見銀山における一連の活動。昭和63年以来の長期にわたる活動。
- ・地域の風土や文化をまもる暮らしを服飾ブランドの創設を通じて発信していること、また地域の歴史や文化、暮らしに共感する人々を受け入れる環境を構築している点は高く評価できる。
- ・石見銀山は世界遺産に認定されたときこそ多くの観光客が訪れたが、それが持続していない面がある。世界遺産というだけで来訪者を持続的に呼び込むことは容易ではないが、世界遺産に認定される本質的な地域の価値をベースにビジネスとして持続可能なカタチで魅力的なライフスタイルを発信し続けている点が素晴らしい。
- ・地域の文化資源を蘇生・ブランディングに成功している点が素晴らしい。
- ・事業展開をする際の拠点を地方に置きながら、古いものを古いまま使うのではなく、現代の視点、未来の着眼点を持ち、多くの人を魅了する商品を創ることで、経営を成り立たせている。一企業ではあるが、ふるさとの風景や人材を創ることに多大な功績を与えていると評価。
- ・【先進性】「復古創新」という考えとともに暮らしに根差した独自の衣食住提案。  
【継続性】昭和63年から継続。【発展性】大森町の「美しい循環」のある暮らしを次世代へつなげている。【自主性】「群言堂」自主ブランド。【連携】国連機関はじめ国内外の多種多様な交流。【効果】共感した若者が移住し定住へつながっている。
- ・「復古創新」など、コンセプトを大事にした持続性のある地域づくりになっている。また、若者がその考え方に引かれて移住してくるなど、他地域にあまり見られない取り組みとなっている。その原点は「ありのまま」の生活をデザインを通じて「ハイセンス」に表現していることにあると考える。



【松場 登美 氏】

## 岩手県紫波町

地域経営改革

まちなか再生

その他（公民連携）

## 概要

紫波町は、JR紫波中央駅前の長年活用されてこなかった町有地10.7haを中心とした都市整備を図るため、平成21年（2009年）3月に議決した紫波町公民連携基本計画に基づき、平成21年度から紫波中央駅前都市整備事業（オガールプロジェクト）を開始した。この事業では、町有地の活用、老朽化した庁舎の建設、図書館の新設など、町が抱えていた行政課題に公民連携手法を取り入れ、町の財政負担を最小限に抑えながら公共施設と民間施設等の立地による複合的な経済開発を行っており、補助金に頼らないまちづくりを進めている。



【図書館が入居する官民複合施設  
オガールプラザ】

## 評価された点

- ・ 将来性に期待。
- ・ オガールプロジェクト。官民連携の公共事業の成功例。ただし、大規模なので、必ずしも多くのモデルとはなりえないかもしれない。しかし、逆に言うと、小規模町村でも資源を集中すればこうしたことができるという好例であるといえる。
- ・ 駅前開発を住民参加によるビジョン構築と、民間資金の活用、専門家との連携を通じて創りあげ、町の社会経済活動の拠点ともいえる空間を明確な地域ビジョンに基づいて構築した点は高く評価できる。更なる展開に向けた取り組みも推進されている。
- ・ 紫波町の取り組みは、わが国における官民連携の仕組み（稼ぐインフラ）としても代表的な成功例といえることができるだろう。このプロジェクトを担った中核人材もまだ年齢的に若いので、さらなる発展が期待されるよい事例といえる。
- ・ 【先進性】これまでの公共調達手段に替わる民間主導型公民連携事業。【継続性】①来場者数の伸び、不動産価格上昇。②返済資金（賃料）確保の見通し。③持続可能な産業の創出。【発展性】他地域への波及（全国からの視察）。【自主性】補助金に頼らず市場から資金調達し稼いでいく仕組みの構築。【連携】①町とオガール紫波株式会社が地域の様々な主体と協働。②福祉、農業、NPO、構成事業者、マスコミ等の相互理解。③農家との連携（マルシェ）。【効果】①定住・交流人口増加。②不動産価格上昇。③町財政への好影響（賃料収入）。
- ・ 補助金に頼らないまちづくりであり公民連携の先駆的事例である。施設づくりも民間が入居予定業者へのヒアリングを行い、そこから資金計画を積み上げオーバースペックにならないようにしている。また、図書館がここに入居するなど様々なイノベーションが起きている。



【賑わうオガール広場】

定住促進

環境保全

コミュニティ

## 概要

2006年智頭町に移住してきた西村代表が都会で真似できない田舎ならではの子育てとして森のようちえんを構想し、町独自の町おこしの仕組みである『智頭町百人委員会』に企画提案し、『智頭町森のようちえんまるたんぼう』を設立。2009年に行政が支援する形でスタートした。地域の資源（森、ヒト、風習等）を活かした、子どもの主体性を伸ばす幼児教育はメディア等にも取り上げられた結果、森のようちえんを目指して智頭町内外に移住してきた人数は209名、定着率（卒園後も移住先に定住）77.4%の取り組みとなっている。活動は広がり、小学生以上を対象とするサドベリースクールや、子育て移住者向けシェアハウスなども運営している。



【探検】

## 評価された点

- ・ 2009年よりスタートしており、活動に広がりがある。ユニークである。
- ・ 森のようちえんの先駆けであり、子どもの豊かな学びを地域の中で創出し、移住者を呼び込むことにもつながっている。
- ・ 豊かな自然を最大限に活用し、幼い子どもたちへの教育方法は、都会育ちの子どもには味わえない贅沢なアイデア。地元愛を育てることにもつながる。
- ・ 自然との共生社会の取り組みが移住者等の実績として結実。
- ・ 地域資源を生かし、移住者増に繋げ、また、新しい課題に対しての新展開が継続されている点を評価。定着率が高いのも、こうした新課題の解決によるところが大きいのではないだろうか。
- ・ 2009年に行政支援のもとスタート。以来、森のようちえんを目指して智頭町内外に移住してきた人は209名、定着率（卒園後も定住）77.4%。卒園後の児童の受け皿や子育て移住者向けシェアハウスにひろがるなど、継続性、実績、効果、発展性、協働性各要素に高いパフォーマンスを発揮している。
- ・ 都会にはできない野外保育によって、移住者が増えていることに注目した。保育世代は若い人が中心になるので、年齢構成の若返りにも当然貢献する。先駆的な事例として参考になると考える。



【味わう】

概要

特定非営利活動法人奥入瀬自然観光資源研究会（以下「おいけん」という。）は、旧態依然とした周遊観光スタイルからの脱却を図り、その地域が有する自然・歴史・民俗・文化そして人財という地域固有の「資源」を最大限有効に活用しながら、持続的な観光振興を目指すため設立された団体である。

おいけんは、「奥入瀬フィールドミュージアム構想」と称し、奥入瀬・十和田湖エリア全体をひとつの有機的な野外博物館と見立て、優れたガイドングをもって、その魅力と価値を体感しつつ学んでいく滞在型の観光スタイルを提唱し、地域性を前面に出したオリジナリティに富んだプログラムを提供している。

評価された点

- ・ 多様な活動を行政に頼らずに実現している。
- ・ 奥入瀬・十和田湖地域においてフィールドミュージアム構想を掲げ、自然学校や自然観察会を通じて、地域内外の人々に環境の価値を伝える取り組みを推進するとともに、調査研究のネットワークも構築している。
- ・ 【自主性】 会費と売上等で運営
- 【連携】 自治体との連携
- 【独自性】 各種ネイチャーツアー等のオリジナリティに富んだプログラム
- 【効果】 外国人観光客の増加
- 【発展性】 満喫プロジェクトに採択され、国内外の利用客増加見込



【モニタリング調査】



【ガイドツアー「コケさんぽ」】



【外国語ガイド養成講座「フィールド実践」】



概要

五城目町の町村という集落には、築130年以上経過している茅葺古民家があるが、維持費がかかることや管理者がいないことから、解体が検討されていた。この歴史ある古民家を後世に伝えていくために、古民家を村に見立てた「シェアビレッジ」を創設。年貢（年会費）を払うことで村民（会員）となることができ、年貢をもとに古民家の修繕費等を捻出。古民家への関わりを通じて、都会と田舎がつながり学び合うコミュニティを育んでいる。



【一揆】

評価された点

- ・古民家を活用し、地域内外の人々が繋がり、学び合う新たなプラットフォームを構築している。クラウドファンディングや「年貢」制による域外からの気持ちのこもった資金調達も行われている。
- ・都市部の住民との新しい関係を創出しながら地域の文化資源を維持発展させる様々な仕組みが素晴らしい。
- ・【自主性】クラウドファンディングによる資金調達。【連携】村民と地元との交流。【独自性】多くの人で1つの家を支える仕組みの構築。【効果】県外からの移住者の出現。【発展性】全国への拠点の展開。
- ・新指向の地域づくりといえる。SNSによる発信に「都市と農村」のつながりと付加価値（地域価値：米の消費など）を載せている。更にこのモデルを全国展開しており、他地域でも似た（決して同じではなく）取り組みができる可能性が認められる。



【東京寄合（日本橋ANDON）】



【里帰（集合写真）】

概要

福島の地産地消を進めるためには、宿泊施設と生産者をつなぐ取組が不可欠と考え、「素材広場」による活動を開始。

生産者の素材の情報収集・発信・交流会の実施などを経て、受発注業まで行う。宿泊施設の魅力を向上する地産地消の企画を行い、生産者と宿泊施設等を素材でつなぐ取組を実践している。

評価された点

- ・地産地消のユニークな取り組み。外部の視点が生きている。
- ・飲食店が地元のモノを使いたくてもなかなか情報がいきわたらなかつたり、物流が整っていないことがある。その部分をコーディネートする人材は必ず必要なので、良いスキーム。
- ・農家と宿泊施設のつなぎ方は、素材広場を通じた会話より行われ、そこにメディアをうまく引き込んでいる。



【ホテルの方と釣り部発足】



【生産者の現場が何より面白い】



【企画に見える化する販促品作成】



【生産者の商品開発サポート】

概要

秩父市荒川日野（寺沢）地区住民総意のもとに設立した「陽野ふるさと会」は、荒廃し有害獣の生息地と化した里山の解消や再生に取り組んでいたが、会員の高齢化が問題となり、安定して継続できる活動が困難となった。活動を維持するため、後継者の育成のために魅力的な地域づくりの必要性を考え、溪流という地域の特性を活かし、マイクロ水力発電を事業に取り組みすることで後世に引き継ぐ財産の一つを残すことを決意し「陽野ふるさと電力株式会社」を設立した。売電収入を里山整備等に充て、首都圏との交流人口を増やし、里山整備事業や団体、地域の存続を計画している。



【小水力発電実証実験】

評価された点

- ・ マイクロ水力発電による売電事業で活動費を捻出し、里山再生などの取り組みを行っている。
- ・ コミュニティの高齢化を逆手に取って自走できる電力のスキームを作った。投資は大きいが将来性を考えると新たな地域経済の取組と言える。
- ・ 地域の団体を母体に電力の地産地消を目指すマイクロ水力発電の会社を設立し、そこでの収益を地域へ再投資する仕組みをつくっている。こうした取り組みが成果を挙げていけば、中央集権型から地方分散型へ向けた転換に向けて大きな役割を果たすことが期待される。



【発電機の設置】



【里山整備草刈り作業】



【曼珠沙華の根付け】

特定非営利活動法人芸術と遊び創造協会

東京都新宿区

地場産品発掘・ブランド化

定住促進

観光振興・交流

まちなか再生

環境保全

産業振興

コミュニティ

概要

平成20年4月、新宿区で廃校になった旧四谷第四小学校に、跡地活用の一環として、地域の推薦を受けて東京おもちゃ美術館がオープンした。本美術館は、多世代交流、木育推進などを旗印に、市民の力を最大限に生かす「市民立」の美術館として設立。その後、木育事業を全国の自治体と連携して実施、地域材を活用した木製玩具の配付事業（ウッドスタート事業）を展開している。また「東京おもちゃ美術館モデル」という、新しい美術館マネジメントの手法を取り入れた「姉妹おもちゃ美術館」が全国各地につくられ、地域活性化、地域の価値の再発見につながっている。



【東京おもちゃ美術館外観】



【赤ちゃん木育ひろば】

評価された点

- ・ NPOとして大規模な活動を区から自立して幅広く行い、地域に貢献している。
- ・ 小学校の跡地利用の一環として、おもちゃ美術館をオープンし、各地の自治体と連携しながら木育事業を実施するなど、地域内外との連携をはかりつつ、子どもを中心とした学びや育ちに繋がる場を形成している。
- ・ 地元愛を幼い頃から感じられる取り組みを実施している。地域職人、歴史、文化と様々な要素のある施設の活用の新しい形である。
- ・ ミュージアムの新しい在り方、運営方法を確立し、経営モデルとしても全国展開される好事例として評価できる。
- ・ 市民の力を活用したミュージアム経営という先進性、平成20年からの安定した経営と全国への広がりという継続性、発展性が評価される。また、地元自治体、市民、地元企業との連携や東京おもちゃ美術館の14万人を超える入場者、ウッドスタート事業の木を取り入れる暮らしのきっかけや木工業・小売業への波及効果など、幅広い分野に大きな効果をもたらしている。
- ・ 市民立という新規性もさることながら、木育教育と「姉妹おもちゃ美術館」等、様々なイノベーションがみられ、経済波及効果やSDGsへの貢献も期待できる。



【全国姉妹おもちゃ美術館マップ】

地場産品発掘・ブランド化

観光振興・交流

産業振興

## 概要

1992年に新潟市街地の南西部、日本海に広がるワインとは無縁の海岸地帯に、ぶどうを植えワイナリーを創設したカーブドッチ。人口50万人を擁する新潟市（当時）と隣接し、首都圏まで2時間の立地を生かし、単に売るだけではなく、買いに来てもらうことをコンセプトに高付加価値商品を提供。レストラン・宿泊施設・温浴施設等を開業し、地元・県外を問わず客を引き付け訪問者が絶えない。また、産業化・産地化するため、契約農家の育成とともに、4軒のワイナリーを育て、「新潟ワインコースト」を形成した。



【カーブドッチ】

## 評価された点

- ・ 1992年からの活動。ワイナリーが当初の1軒から5軒に増加している。
- ・ 地域に新たにブドウ畑を整備し、ブドウやワインのほか、来訪者を呼ぶための事業を行い、新たな地域経済拠点を創出した。
- ・ 地場産のワインをブランド化しただけでなく、観光農園としても成功している。街のブランディングとして地域のイメージが上がる。
- ・ 六次産業化の好事例として評価。地方での事業展開は、商品やサービスが安価に設定されることが多いが、生産量を決めた上で、ブランド化を図り、計画を練り上げている点では今後の地方創生のモデルとなりうる。
- ・ 【継続性】1992年設立。【自主性】自主財源。【連携】地元農家、ワイナリー、外部スペシャリスト。【先進性】差別化、付加価値経営。【効果】雇用創出、地元ブランド、1ターン、Uターン。【発展性】地域において魅力ある施設のさらなる増加。
- ・ 「集積利益」の考え方が明確で、1社で先を目指すのではなく、仲間とさらに遠い先を目指す経営哲学がある。世界的に見ても温浴施設付きのワイナリーは珍しく、高付加価値商品戦略など、地域産品づくりの参考になる。



【マルシェ】



【トラヴィーニュー】

## 概要

高齢化の影響により、町内の増えていく空き家と変わっていく町並みに歯がゆさを感じ、建設業者の代表者でもある北山氏が、まだまだ使える空き家の解体を依頼されるケースが増え、「空き家は壊すよりも残した方が絶対に未来につながる」という思いからNPO法人を立ち上げ、空き家とそこへ住みたい人をマッチングさせるなど、空き家を再活用して地域の活性化につなげようと空き家を活用したまちづくりに取り組んでいる。

## 評価された点

- ・平成23年より。空き家マッチングが主な活動。活動がコンスタントである。
- ・地域の空き家を徹底的に調査し、空き家を出さない仕組みづくりと、空き家の有効活用を通じたまちづくりに積極的に取り組んでおり、コミュニティの拠点づくりや、移住者・来訪者獲得に貢献している。
- ・【継続性】2011年設立。【自主性】補助金頼らず。【連携】地方自治体にシステム提供。【先進性】システム開発、民間視点。【効果】意識、知名度。【発展性】フルサポートジュニア。
- ・空き家対策を地域で積極的に行っていることから。全国の先進事例として価値があると思う。また、ボランティアスタッフとも連携するなど、地域全体としての取り組みにも新規性がみられる。



【「ふるさぽマップ」を活用した空き家調査フィールドワーク】



【ふるさと美浜元気プロジェクト】



【空き家片付けイベント】



【第16回美浜町空き家マッチングツアー】 10

概要

「大日向そば活性化組合」が活動している地域は、山が急峻で平坦な農地が少なく、経営規模の小さな兼業農家がほとんどである。このため、就職で集落を離れていく若者が増え、農業後継者不足が深刻化し、遊休荒廃農地が年々増加していた。このため、蕎麦打ちの風土を継承し、遊休荒廃農地の増加に歯止めをかけたいとの思いから、平成16年「大日向そば活性化組合」を設立し、遊休農地で蕎麦（信濃1号）の栽培を始めた。



【耕起作業】

評価された点

- ・平成16年から活動しており、小さな集落で、地味だが着実な活動が進められている。
- ・地域のしきたりを継承しながら、「蕎麦作り」という共通の活動を幅広い世代で作りに上げている。一次産業から観光へ繋げるというまち全体の取組を評価。
- ・補助金に頼らず、新たなイベントにも取り組み、活動範囲やメンバーも増やしつつ、近隣の自治会にも波及効果をもたらしている。



【大日向新そば祭りの状況】



【蕎麦打ち作業】



概要

山里に20世帯ほどが暮らす高島市今津町椋川区。平成20年、築144年になる茅葺古民家を守ろうと住民と地区外の協力者がグループを結成。高島市に働きかけ、古民家は高島市都市農村交流施設「おっきん椋川交流館」として整備され、当グループが管理運営し、山里の暮らし体験を提供。収穫祭「おっきん！椋川」では、各家が農産物や工芸品などを販売。市内外の来訪者と交流している。約70名のメンバーが知恵を出し合い、毎年1000人を集客。暮らしの知恵と技の伝承と山里の風景を次代につなぐ活動をしている。



【収穫祭「おっきん！椋川」】

評価された点

- ・平成16年から始まり、平成20年から本格化。地域活動からひろがる。ふるさとづくりの典型例。
- ・【継続性】2008年設立。【独自性】補助金頼らず。【連携生】移住者、地域外市民、市民グループ、専門家、教育機関。【先進性】域外の応援者呼び込み地域資源を守り次世代へ継続。【効果】地域住民意識の変化。【発展性】多様な団体との連携。
- ・地区住民がふるさとに誇りを持てるようになる中で交流人口が増えている。さらに、この事業を移住者や地区外の会員にも広めていく模索があるなど、今後の地域づくりの参考になることがある。



【高島市都市農村交流施設おっきん椋川交流館】



【暮らし体験イベント(わら細工)】



むろと廃校水族館

高知県室戸市

観光振興・交流

定住促進

概要

室戸市では、少子化が著しく小中学校の統廃合が続き、廃校の利活用や学校がなくなった地域の衰退への対策が課題となっていた。

NPO法人日本ウミガメ協議会が全国に類を見ない廃校を活用した水族館として、学校の雰囲気を活かした懐かしさを感じる展示やユニークな企画に取り組んでおり、室戸市の観光振興や地域の活性化に繋がっている。



【むろと廃校水族館】

評価された点

- ・ 廃校は全国でも活用されているが、水族館というのは新しく発想がユニーク。維持費も施設入館料で賄っており、今後も安定した経営を期待したい。
- ・ 水族館といえば大規模投資をイメージするが、廃校を活用し、プールにウミガメが泳ぐという意外性が興味深い。仕入れ元が地元漁師であり、地元の飲食店等とのコラボ企画もあり、地域のモノやヒトと、ふるさとを創っていくという連携性を評価。
- ・ 廃校の活用で、全国初となる水族館への転換事例。地元漁師等との連携により人気の観光施設となり、交流人口の増加に大きく貢献している。
- ・ 【自主性】行政に頼らず工夫。【連携】周辺観光施設、飲食店、地元漁師。【先進性】廃校活用全国初の水族館。【効果】15万人をこえる来場者。【発展性】自施設以外との更なる連携。



【屋外プール】



【館内展示(円形水槽)】